

## 渡良瀬遊水地の自然環境

財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団 白井勝二

### 1. 渡良瀬遊水地の概要

渡良瀬遊水地は、栃木・群馬・埼玉・茨城4県の県境にまたがる面積33k㎡（東京ドーム700倍）で人工的なものとしては日本で一番大きい遊水地です。

渡良瀬遊水地には、渡良瀬川・思川・巴波川の3河川が流入して、約4km下流で利根川に合流しています。

その目的は、洪水をため水害を防ぐ治水、ハート形の谷中湖に水を溜めておき都市用水供給のための利水を目的に整備されましたが、広大な空間は、自然豊かで多くの動植物の生息の場となっています。

◎治水…洪水時に水害を防ぐために

渡良瀬遊水地を流れる渡良瀬川、思川、巴波川に沿って3つの調節池があります。これは、大きな洪水の時には3つの河川の水を調節池に溜めて、利根川本川の計画高水流量に影響を与えないことを目的として整備されているものです。

◎利水…首都圏の水がめとして

利根川の水が減少したときに、渡良瀬貯水池（谷中湖）に貯水した水を、利根川上流ダム群と連携しながら、生活用水の補給を行います。

◎利用…首都圏のオアシス

渡良瀬遊水地は、東京から60km圏内にあり、広大で自然豊かな環境の中で、上空を利用した熱気球、水面を利用したヨット、カヌー、釣り、広場を利用したバーベキューや道路を利用した散策、サイクリング、マラソン、トライアスロンなど年間100万人の人々が様々に利用しています。

◎環境…多くの動植物の生息地

世界的に湿地環境が減少する中、渡良瀬遊水地は33k㎡という広大な敷地に、貴重な湿地環境が保たれています。

こうした豊かな環境には、様々な動植物が見られます。植物は約1,000種類が確認されていますが、そのうち、60種類は国指定の絶滅危惧植物です。



一つの場所にこれだけたくさんの貴重な植物があることはとても珍しいことです。野鳥は、チュウヒなど猛禽類をはじめ、約 250 種類が渡良瀬遊水地で確認されています。これは、日本で確認された野鳥の種類の半分となります。

昆虫はヨシ原を中心とした湿地帯などに約 1,700 種類が確認されています。国指定の絶滅危惧種は 62 種です。



トネハナヤスリ



チョウジソウ



ハイイロチュウヒ

## 2. ラムサール条約地に登録

渡良瀬遊水地は、自然環境豊かな低湿地であり、国際的にも重要な湿地であるとされ平成 24 年 7 月にラムサール条約湿地に登録されました、ラムサール条約の正式名称は「特に水鳥の生育地として国際的に重要な湿地に関する条約」と言います。

我が国のラムサール条約登録地は、渡良瀬遊水地を含め 46ヶ所あります。この環境は、我が国にとっても重要な環境であり、地域の宝でもあり、多くの人々の理解と協力で保全再生のもと賢明な利用を図りつつ、将来に引き継ぐことが求められています。

## 3. 環境保全や利用状況

地元の人々によるヨシ焼や湿地再生及び、クリーン作戦による環境の維持、保全が図られています。

### ◇ヨシ焼

遊水地では毎年 3 月の下旬になると、広大なヨシ原を一日で焼きます。そうすることで、柳の芽などが焼かれて樹林化を防止できます。また枯れ葉やヨシがなくなることで、地面に光があたり、春先に小さな植物が芽吹くことができます。



### ◇湿地再生事業と土の攪乱

乾燥化しつつある遊水地では、第 2 調節池で大規模な湿地再生事業が行われています。土の攪乱により土の中で眠っていた貴重植物の種が目覚まして再び生えてくることがあります。

### ◇環境学習、動植物の観察会等の実施

渡良瀬遊水地では、自然環境を利用し、小学生を中心とした環境学習や一般を対象として動植物の観察会や各地の生涯学習が行われています。

渡良瀬遊水地の自然環境やそこに生息している動植物に感銘、驚き、動植物にふれ、舟に乗る体験などができます。自然に親しんで、生き物に関心を寄せるなど、繰り返し実施される学習で理解を深めることができる良好な学習の場があります。